

日時：2015年12月19日（土）15：00～

場所：東洋大学6号館1階 第3会議室

出席者：藤田主一副理事長、加藤司、松田英子、小塩真司、山崎晴美、北村英哉、中村真
委任：渡邊芳之理事長、荒川歩、尾見康博

日本パーソナリティ心理学会第118回常任理事会

報告事項

I 理事長挨拶（渡邊理事長が欠席のため、藤田副理事長が代読）

II 各種委員会報告

1 機関誌編集委員会（加藤委員長）

(1) 「パーソナリティ研究」第24巻第2号

2015年11月20日発行（予定通り）

種別	題目	筆頭者	受稿	受理
原著	恋愛対象者に対する接触回避	河野和明	2014/6/5	2015/4/6
原著	大学生における抑うつ傾向の効果的な低減に向けた検討—友人のサポートと生きがい感の観点から—	遠藤伸太郎	2014/7/2	2015/4/26
原著	自尊感情が主観的幸福感へ及ぼす影響の検討—自己価値の随伴性からの整理	笹川果央理	2014/9/15	2015/6/14
原著	中学生における基本的心理欲求とスクールモラルとの関連—学校場面における基本的心理欲求充足尺度の作成—	西村多久磨	2012/11/6	2015/6/14
原著	大学生におけるTwitter閲覧頻度と同調志向及び自己関連情報の収集に関わる心理特性との関連	澤山郁夫	2014/2/6	2015/6/16
ショート	バイタリティー尺度作成の試み—大学生と成人を調査対象として—	福井未来	2014/11/12	2015/4/26
ショート	大学生運動部員のレジリエンスにおける2過程モデルの検討	上野雄己	2014/7/27	2015/6/14
ショート	認知的統制の媒介による行動的対処と抑うつとの関連	川村綾	2015/2/13	2015/6/16
ショート	過去の経験の想起数と青年期後期の自我同一性の感覚の関連	小島淳広	2015/1/9	2015/6/16
ショート	擬態語性格尺度短縮版の作成	酒井恵子	2014/11/12	2015/7/7
ショート	日本語版 Short Grit（Grit-S）尺度の作成	西川一二	2015/3/15	2015/7/7
ショート	日本語版強み認識尺度の信頼性・妥当性の検討	高橋誠	2015/4/15	2015/7/7
ショート	子どもへの関心尺度の得点と幼児の画像への選好との関連	扇原貴志	2015/2/3	2015/7/7

(2) 「パーソナリティ研究」第24巻第3号

12月1日掲載論文決定。12月11日現在、国際文献に入稿中。規定通りの出版を予定。

種別	題目	筆頭者	受稿	受理
原著	特権意識の構造と特徴—3つの特権意識に注目して—	下司忠大	2014/7/29	2015/9/20
原著	内的作業モデルと情報処理の誤り—検出失敗と誤検出に着目して—	島義弘	2015/1/24	2015/8/14
原著	学業場面における不健全完全主義者の動機づけに随伴性自己価値および失敗の反すうが及ぼす影響	胡(増井)綾及	2014/8/26	2015/9/1
原著	アタッチメントスタイルと親イメージの関連—20 答法による探索的検討	田附紘平	2015/2/3	2015/9/30
原著	対人的文脈における防衛的悲観主義の役割：初対面の複数の他者への行動意図に着目して	清水陽香	2015/4/22	2015/10/29
ショート	潜在的エゴティズムが対人魅力に与える影響—潜在的自尊心による調整効果の検討—	津村健太	2015/3/13	2015/8/14
ショート	楽観—悲観性と注意バイアス：修正版 gap-overlap task を用いて	中山伸一	2015/5/10	2015/9/17
ショート	接近回避志向と省察・反芻、抑うつとの関連	及川恵	2015/4/15	2015/9/30
ショート	適切な自己開示方法と聞き手の受容的反応および抑うつとの関連—開示者の再解釈に注目して—	山田詩織	2015/7/5	2015/10/29
ショート	一般的・個人的自由意志尺度 (Free Will and Determinism Scale; FWDS) 日本語版の作成	渡辺匠	2015/4/15	2015/10/30

(3) 「パーソナリティ研究」第25巻第1号以降

採択論文、ショートルレポート1篇。

(4) 採択状況

年月	採択	再審査	不採択	投稿取下
2015/1	3	7	3	0
2	2	4	2	0
3	1	6	3	1
4	3	9	2	0
5	0	7	0	0
6	5	10	2	0
7	4	7	1	0
8	2	9	7	2
9	6	—	1	0
10	3	審査中	3	0
11	0	40	0	0

(5) 機関誌広告に関する件

第 117 回常任理事会の議決に基づき、機関誌広告に関する内規を以下の通り定めることが提案され、審議の結果、承認された。

日本パーソナリティ心理学会機関誌広告に関する内規

第 1 条 広告の掲載などに関しては、機関誌編集委員長が担当する。

第 2 条 機関誌への広告料は、当面の間、1 号あたり 1 頁 1 万円＋消費税、半頁 6000 円＋消費税とする。金額は、常任理事会の承諾を得て、変更することが可能である。ただし、頁数などの調節によって、半頁の料金で、1 頁の広告を出す場合がある。

第 3 条 広告の掲載内容に関しては、本学会に関連する図書、英文校閲、本学会に関する心理検査器具、本学会に関連する学会や機関誌などの内容に限る。ただし、常任理事会の審議によって、上記以外の広告を掲載することができる。

第 4 条 賛助会員が広告を掲載する場合においては、第 3 条に反しない限り、毎号、半頁あるいは 1 頁の広告を出すことができる。

付記

上記に関しては、パーソナリティ研究第 25 巻第 1 号から適用される。

(6) 「ちとせプレス」からの申し出に関する件

株式会社「ちとせプレス」より、機関誌に掲載された論文の要約（著者作成）を「ちとせプレス」の HP「サイナビ」に掲載したいという申し出があった。

審議の結果、著者の同意を前提に、本学会として承認することを決定した。

(7) エディトリアル件の件

第 25 巻第 1 号より、編集委員長によるエディトリアルを不定期に掲載することが提案された。エディトリアルの内容は、機関誌の存在意義、投稿する意義、編集方針などを予定。審議の結果、承認された。

(8) 機関誌掲載論文の訂正に関する件

機関誌「パーソナリティ研究」に掲載された論文に対する訂正の申し出に関する内規を以下の通り定めることが提案され、審議の結果、承認された。

機関誌「パーソナリティ研究」掲載論文の訂正に関する内規

第 1 条 「パーソナリティ研究」に掲載された論文に対する、訂正などの申し出は第一著者のみとし、それ以外の者による申し出は受理しない。

第 2 条 「パーソナリティ研究」に訂正記事を掲載したい場合、および、J-STAGE などの Web 上において訂正記事を掲載したい場合には、編集委員会で協議したのち、訂正記事を「パーソナリティ研究」に掲載するかどうかを決定する。ただし、極めて軽微な修正の場合には、機関誌編集委員長の判断で掲載を決定する。論文の根幹をなす重大な訂正に関しては、常任理事会で審議し、常任理事会の決定に従う。

第 3 条 「パーソナリティ研究」に訂正記事を掲載する場合、第一著者から刷り上がり 1 頁あたり 2,000 円を徴収する。

第 4 条 J-STAGE などの Web 上において訂正記事を掲載したい場合には、1 論文につき

6,000 円を徴収する。

第 5 条 第一著者からの振り込みが確認されたのち、作業を実施する。

第 6 条 Web 上で公開された掲載論文の差し替えに対する申し出は原則認められない。ただし、倫理的配慮から差し替えが必要な場合に限り、常任理事会の決議を経て差し替えをする。

2 経常的研究交流委員会（荒川委員長欠席により、資料を中村事務局長が代読）

(1) 25 回大会時の経常企画シンポジウムを他学会と共催する可能性について

経常的研究交流委員長より、25 回大会で開催予定のシンポジウム「忘れたい、考えたくない—意図的抑制の心理学—」を、このテーマと密接に結びつく認知心理学会との共催とすることが可能か、また、共催となった場合に認知心理学会会員は無料で参加いただくことが可能か、について検討してほしい旨の依頼があった。

これらについて以下の意見があった。

- ・認知心理学会との共催のメリットが不明である。
- ・無料参加を認めることは、大会運営上の負担が大きい。
- ・本学会の会員が有料で、他学会の会員が無料というのはいかがなものか。
- ・公開シンポ（無料）として一般向けに開催するなどの可能性を検討してはどうか。
- ・完全公開であれば無料、参加者限定の場合は参加費を徴収した方が良いのではないか。

※ 以上の通り、疑問点および不明な点が多いので、経常的研究交流委員長に補足説明を依頼したうえで、継続検討することを申し合わせた。

(2) 大会前日の YPP の同時時間帯の中堅向けの企画の実施について

経常的研究交流委員長より、同委員会では、就職後数年後の会員が徐々に大会から遠ざかってしまう現象を本学会の問題として考えており、この年代を中心に少し幅広い年齢層（30-50）をターゲットとして、共通して抱える問題について広く話し合い、また積極的に参加できるような企画を YPP と同時時間帯に実施できないかとの提案があった。企画内容は、以下の通り。

第一部 「マイ リサーチ ナウ！」（仮題）二時間程度

発表者：30-50 歳の会員で、5-15 年前の大会で複数回発表し、会員身分を保持しているにもかかわらず、この 2-3 年発表がない人を、大会の記録に基づいて 6 名程度抽出し、15 分程度の研究発表を依頼する。テーマは自由。

第二部 「私の授業における一工夫を共有しよう」 1 時間半程度

第一部発表者には打診、それ以外にも公募。

審議の結果、発表者に謝金を支払わないことを条件に中堅向け企画案が承認された。

3 広報委員会（松田委員長）

(1) ウェブサイトの更新、メールニュースの配信などの活動内容が説明された。

(2) 大会関連活動

YPP2016 を大会前日（9 月 13 日の午後）に開催予定で準備中であることが報告された。

4 国際交流委員会（小塩委員長）

(1) 第24回大会の報告（8月21日9:30-11:30）

- Helpful Tips for Writing and Presenting Your Research in English
講演者：Emmanuel Manalo（京都大学）
- 参加者30名

(2) 第25回大会の計画

- 招聘する研究者（別紙参照）
Dr. Antonio Terracciano（Associate Professor, Florida State University）
Dr. Angelina Sutin（Assistant Professor, Florida State University）
- 2つの企画
講演：パーソナリティと心理的健康（仮題）（90分予定）
講演者：Dr. Antonio Terracciano
ワークショップ：パーソナリティと身体的健康（120分予定）
 - ① invited talk: Dr. Angelina Sutin (20-30 min)
 - ② 2～3人の日本の研究者が研究報告（各10-15 min）
 - ③ commentary : Dr. Antonio Terracciano (10 min)
 - ④ 質疑応答（10-20 min）※東洋大学HIRCとの共催とする。

以上の招聘に関わる予算、スケジュール等について具体的な提案があり、承認された。

5 学会活性化委員会（山崎委員長）

(1) 第24回大会優秀大会発表賞の件

第24回大会の優秀大会発表賞の審査結果が報告され、審議の結果、以下の4件を優秀大会発表賞とすることを決定した。受賞者および受賞発表題目は以下の通り（敬称略）。

- ①服部陽介「思考抑制とネガティブ気分がマインドワンダリングに及ぼす影響」
- ②三和秀平・外山美樹「努力承認評価が内発的動機づけに与える影響の検討ー正答数と解決不可能課題遂行後の動機づけに着目してー」
- ③浅野良輔「産後うつ発達の軌跡の同定ならびに子どもの攻撃性との関連ー出生コホートと潜在クラス成長モデルによる検討ー」
- ④藤本学「社会に適応するために必要なSWITCHーホームレスの実体験に基づく社会的スキル尺度の開発ー」

(2) 第25回大会優秀大会発表賞の件

第25回大会においても、これまでと同様に大会発表賞の審査を行うことを申し合わせた。

6 学会賞選考委員会（北村委員長）

学会賞選考委員会の委員数、選考方法および選考過程について申し合わせ事項が提案され、審議の結果、承認された。申し合わせ事項は、以下の通り。

学会賞選考に関する申し合わせ事項

1. 学会賞選考委員会は、理事から1名以上を委員とする。
2. 委員は、委員長を含めて標準を6名とする。
3. 第1次選考において投票を行う場合は、委員長を除く委員が投票を行い、委員長は必要な裁定を行うこととする。
4. 第1次選考にあたり委員長は必要に応じて編集委員会での審査内容を知り得るものとする。
5. 第1次選考において、審議、投票の方法は委員長が提案し、委員の承諾を得るものとする。
6. 第1次選考の結果、候補論文を第2次選考に委ねる。
7. 第1次選考が得点化されている場合には、その結果の内容を第2次選考に送ることとする。

なお、第1回学会賞の審査スケジュールとして、2016年5月20までに理事からの推薦論文の届出を締め切ること、2016年6月末までに一次審査を行うことを申し合わせた。

また、学会賞選考委員として6名が推薦され、審議の結果、承認された。

III 日本心理学諸学会連合（代理：中村事務局長）

1 日本心理研修センターから日心連加盟学会宛の寄附依頼について

この件については渡邊理事長と尾見財務担当常任理事に一任することを申し合わせた。

IV 「クロスロード・パーソナリティシリーズ」刊行について（北村常任理事）

本日、常任理事会開始前にクロスロード・パーソナリティシリーズの会議が行われた。現状を確認し合い、ナカニシヤ出版としても継続させていただきたいとの意向で、まずは、入稿済み3件と（まだ原稿は出ていないが）目次が決まっている1件の計4件の刊行を早めに進めるということ、その他の20件強については、いったん白紙に戻して、再検討することを申し合わせたとの報告があった。また、常任理事会が積極的にかかわり、新編集委員会を立ち上げることを今後、検討することも申し合わせたとの報告があった。

V 第24回大会会計報告（代理：中村事務局長）

第24回大会準備委員会より収支報告があり、審議の結果、承認された。

VI 第25回大会準備状況について（北村大会準備委員長）

第25回大会の1号通信が配布され、準備状況について説明があった。

- ・名誉会員への対応および発表予定の新入会員に対して各種申込の締切厳守を徹底する件については、大会主催校と事務局が連携して取り組むことを申し合わせた。
- ・賛助会員が出展する際に出展料を割り引くなどの対応は、大会主催校の裁量とすることを申し合わせた。
- ・大会発表論文集の電子化について、現状と問題点を意見交換し、継続して検討することを申し合わせた。

VII その他

特になし。

審議事項

I 第 117 回常任理事会議事録承認に関する件

審議の結果、承認された。

II 「日本パーソナリティ心理学会 20 年史」の送付先不明会員への対応について

宛先不明者 6 名中、新住所・新所属が判明した 3 名については、福村出版に再発送を依頼し、残りの 3 名分は事務局長が預かり、今後、対応を検討することを申し合わせた。

III 会員の入退会に関する件

事務局より、別紙の通り、新入会希望者 7 名（うち 5 名は ML 審議にて承認済み）、退会希望者 8 名の一覧が示され、審議の結果、承認された。また、宛先不明者が報告された。

以上の承認を受けて、2015 年 12 月 16 日現在、会員総数は 910 名である（内訳は、一般会員 636 名、院生会員 257 名、学生会員 6 名、名誉会員 9 名、賛助会員 2 名）。

IV 国際文献社との各種契約の件

1 オンライン入会の件

オンライン入会について審議した結果、国際文献社の提案通り、一般会員と院生会員はオンライン入会システムに移行し、学生会員については指導教員の署名が必要であることを考慮してこれまでと同じ入会申し込み方法とすることを決定した。

2 入会承認後の入会手続きについて

国際文献社より、入会承認後の入会手続きの一部変更の提案があった。現行と変更案は以下の通り。審議の結果、提案通りに変更することを決定した。

<現行>

- 1、入会承認通知と年会費請求書を郵送
- 2、事務局で入金確認後、会員専用ページの ID と PW を郵送

<変更案>

- 1、入会承認通知兼 ID ・ PW 通知と年会費請求書を郵送
- 2、事務局で入金確認後、メールで入会手続きが完了したことを連絡する

※ ID と PW を入会承認通知に印字して、先に送っておくことで、郵送作業が 1 回で済み、効率的である。ID と PW は、事務局で入金を確認し、正式な会員として登録が完了後、はじめて有効になるようデータベース上で設定する。

3 機関誌在庫の件

第 117 回常任理事会から継続して機関誌在庫の取り扱いを検討してきたが、審議の結果、国際文献社の提案通り、次年度より機関誌在庫の最小部数だけを国際文献社に預かってもらい、残りは国際文献社が推奨する外部倉庫に保管してもらうことを決定した。これに伴い、機関誌の保管に関わる契約費用が新たに生じることも併せて承認された。

ただし、将来的には、在庫処分を含めて検討することを申し合わせた。

V 大会時の非会員講演者等への謝金の基準額について（代理：中村事務局長）

尾見財務担当常任理事から以下の伝達事項があった。

- ・現段階で謝金額は決定できないが、原則として、すでに謝金額を通知済みの場合には、通知通りに進めて構わない。
- ・当面は、謝金が新たに発生するような企画を進めないでほしい。
- ・極力、交通費、宿泊費がかからないように運営を工夫してほしい。

VI 各種委員会において事務作業をアルバイトに依頼する際の時給額（基準額）について
事務局より、原則として時給 1,000 円とすることが提案され、審議の結果、承認された。

VII ICP2016 の寄附・展示・広告の件

寄附・展示・広告の申込について継続検討することを申し合わせた。

VIII その他

特になし。

IX 次回常任理事会に日程について

今回は、3月または4月に開催する予定。具体的な日時は、事務局長から提案することを申し合わせた。